

びわこ学院大学 令和七年度 学校推薦型選抜（公募推薦）「小論文問題」

次の文章を読み、あなたの考えたことを六〇〇字程度で述べなさい。

人間には、身体的なエネルギーだけではなく、心のエネルギーというものもある、と考えると、ものごとがよく了解できるようである。同じ椅子に一時間坐っているにしても、一人でぼーと坐っているのと、客の前で坐っているのでは疲れ方がまったく違う。身体的には同じことをしていても「心」を使っていると、それだけ心のエネルギーを使用しているので疲れるのだ、と思われる。

このようなことは誰しもある程度知っていることである。そこで、人間はエネルギーの節約に努めることになる。仕事など必要なことに使うのは仕方ないとして、不必要なことに、心のエネルギーを使わないようにする、となってくると、人間が何となく無愛想になつてきて、生き方に潤いがなくなってくる。他人に会う度に、にこにこしていたり、相手のことに気を使ったりするとエネルギーの浪費になるというわけである。ときに、役所の窓口などに、このような省エネの見本のような人を見かけることがある。まったくもって無愛想に、じやまくさそうに対応をしているのである。そのくせ、疲れた顔をしたりしているところが、面白いところである。

これとは逆に、エネルギーがあり余っているのか、と思う人もある。仕事に熱心なだけではなく、趣味においても大いに活躍している。他人に会うときも、いつも元気そうだし、いろいろと心づかいをしてくれる。それでいて、それほど疲れているようではない。むしろ、人よりは元気そうである。

このような人たちを見ると、人間には生まれつき、心のエネルギーを沢山もっている人と、少ない人とがあるのかな、と思わされる。いろいろな能力において、人間に差があるように、心のエネルギー量というのにも生まれつきの差があるのだろうか。これは大問題なので、今回は取りあげないことにして、もう少し他のことを考えてみよう。

他との比較ではなくて、自分自身のことを考えてみよう。たとえば、自分が基が好きだとして、基を打っているために使用される心のエネルギーを節約して、もう少し仕事の方に向けようと考えてみるとしよう。そこで、友人と基を打つ回数を少なくして、仕事に力を入れようとして、果してうまくゆくだろうか。あるいは、今まで運動などまったくしなかったのに、ふと友人に誘われてテニスを始めると、それがなかなか面白い。だんだんと熱心にテニスの練習に打ち込むようになる。そんなときに、仕事の方は、以前より能率が悪くなっているだろうか。あんがい、以前と変わらないことが多い。テニスの練習のために、以前よりも朝一時間早く起きているのに、仕事をさぼるところか、むしろ、仕事に対しても意欲的になっている、というときもあるだろう。

もちろん、ものごとには限度ということがあるから、趣味に力を入れれば入れるほど、仕事もよく出来る、などと簡単には言えないが、ともかく、エネルギーの消耗を片方で押さえると、片方で多くなる、というような単純計算が成立しないことは了解されるであろう。片方でエネルギーを費やすことが、かえって他の方に用いられるエネルギーの量も増加させる、というようなことさえある。

以上のことは、人間は「もの」でもないし「機械」でもない、生きものである、という事実によっている。

人間の心のエネルギーは、多くの「鉱脈」のなかに埋もれていて、新しい鉱脈を掘り当てる、これまでとは異なるエネルギーが供給されてくるようである。このような新しい鉱脈を掘り当てることなく、「手持ち」のエネルギーだけに頼ろうとするときは、確かに、それを何かに使用すると、その分だけどこかで節約しなければならぬ、という感じになるようである。

（河合隼雄『こころの処方箋』新潮社）